

ホーム名：グループホームしおかぜ				
自己評価	項目	外部評価		
		自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に努めている	理念を額に入れGH内の見やすいところに掲げており、またスタッフ会議時には理念の実践に向けての取り組みを討議しています。	理念はリビングに掛けられて以前より字は大きく、文章も短くまとめられている。	一目で分かる短い言葉やワンフレーズで理念を表されたら更に解り易い、全職員で考えて見られたら如何かと考える。
2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入船公園の盆踊りや小学校、港区民センターの行事には出来る限り参加しており、お天気の日には、近くの商店街へ買物に行き地域の入居者とのふれあいを大事にしています。	地域の入居者が殆どで、日ごろから買い物や散歩でも声をかけていただいている。地域の保育園児がクリスマスに来てくれたり、夏の盆踊りを見にいける入居者と一緒に出かけたりしている。	地域とは大変良い関係が出来ている。高齢化に伴い地域の行事に参加できる方が少なくなってきたが、買い物は車椅子で一緒に出かけている。これからも温かい支援を続けていただきたい。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人達に理解をしていただく為、認知症学習会を開催したいと考えていますが、現在は取り組めていないのが実状です。		
4	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様や地域から来られる委員の方々に利用者様の現状報告や取り組みを伝えていきます。また、参加できなかった方々には郵送にて会議録を送付しています。	出席者は地域包括センター、家族、職員で地域の方の出席がないことが多い。区の介護保険担当部署からの出席は無い。	地域の方は仕事の都合もあるかと思う、自治会長さんだけでなく代理の方をお願いするなど参加に結びつく工夫をされたい。又行政は介護保険の現場を知って貰うため、次回の日を設定し議事録を届け出席を促す努力を期待する。
5	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議は2ヶ月に一度、ご家族様、地域包括、地域の会長様、職員が集まって話し合い、皆様の意見を出来る限り反映できるように努めています。	行政の担当者は運営推進会議への出席はしていない。行政には何かと必要に応じて相談に行っている。	高齢者関係の法令改訂、介護保険の改訂情報を得るため、又正しい運用について行政の担当者との連絡を密に取られたい。
6	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	常に気持ちの落ち着きを促す声かけを心掛け、事故発生の予防を念頭におき拘束することなく過ごしていただいています。	職員には拘束について入所研修時に指導している。常に入居者に寄り添って拘束をすることは無い。ホーム玄関扉は開錠、エレベータもどんなロックもかけていない。表にいかれたら付いて行っている。	拘束については全員理解している。家庭的に入居者は皆自由に好きなところで好きなように暮らすことも無いが、時には職員間で話合っ理解を深めておきたい。
7	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所不在での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加などにより各職員が虐待についての認識を深め防止に努めています。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、グループホームしおかげでも成年後見人制度を利用している入居者様が生活しており、職員としても権利擁護の意識を念頭において日々のケアに生かせるように取り組んでいます。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	速やかに必要な書類を用意し、丁寧に説明を行うことで御理解いただけるように話し合いを重ねています。		
# 6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で出た意見ならびに施設内に設置している意見箱にある意見書を毎月一回、事業所向上委員会にて討議し問題点に対して迅速に対応できるように努めています。	家族会はホームの行事を手伝いながら参加してくれる家族であり、殆どの家族が参加してくれている。ホームにも頻りに来てくれる。要望は口頭でホームでお聞きする。意見箱に意見が入ったことは無い。	地域の入居者であり、殆どの家族はホームに来てくださる。職員も心強く感じている。利用者とホームとの関係は良好であり理想的関係と見受けられた。
# 7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	毎月のスタッフ会議・法人職員会議・年2回の職員総会を開催しており、その都度、職員同士で意見交換を行い反映を心掛けています。	職員間の会議はいろいろ行っている。医療・介護グループで意見交換や提案もしている。日常的には職員の見解は受け入れてみんなで検討している。	職員の異動も少なくチームワークはよい。職員みんなが意見を出し合い温かい今のホームが出来ていると思われる。更なる研鑽を期待する。
#	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や業績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人代表者と職員代表者との話し合いの場を設け、議論を重ね必要な事項は改善され調整が行われています。		
#	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会を確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	先輩職員の直接指導及び、法人内での研修や地域密着型事業者ネットワークなどの外部研修を通して育成に努めている。		
#	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	大阪市GHネットワーク、港区内のGHとの連携を行い、現場職員を交えた交流学習会を実施しています。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
#	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は、様々な不安な気持ちを色々な角度から感じ取り、安心安全な信頼関係を構築していけるように努めています。	
#	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	小さな事から大きな事まで回数を重ね話し合いを行っています。また些細な事でも報告し合える事で信頼関係も育まれ、安心を提供できるように努めています。	
#	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当法人内にある他事業所とも連携し、本人・家族を交えて納得するまで話し合いをしています。	
#	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする事で信頼関係を重点視しているが、馴れ合いにならないよう緊張感には常に念頭におくように心掛けています。	
#	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には自由に訪問していただけるように常日頃から積極的にコミュニケーションを心掛けています。また、共に過ごせる場の企画も提案しています。	
#	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お天気の良い日は、近所の商店街に買い物に出掛けられ、馴染みのある方々と出会う機会があるので無くさないように努めています。	各居室はなじみのものを並べ入居者は楽しい日々を送っている。近隣の買い物で昔の知り合いも声を掛けてくれるなど馴染みの生活が継続出来ている。
#	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然に輪が出来るような環境づくりを心掛けています。また家具の配置にも配慮し、孤立しないような空間作りをしています。	
#	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了したご家族にも定期的にご連絡を差し上げたり、GHにも気軽に立ち寄っていただいています。	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
#	#	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>希望・意向については密着してお聞きできるように、また普段の何気ない会話からも思いを拾えるように努めています。</p>	<p>入居者に安全で、落ち着いて心穏やかに暮らして頂けることをモットーにしている。入居者のちょっとした言葉やしぐさから思いを読み取られるよう何を優先すべきか考えるように職員に常に指導している。</p>	<p>ホームの理念にある通り、入居者優先の考えを実践されている。入居者がいやな思い、恥ずかしい思いをしないあたったかい生活が出来ている。今後とも思いに副った支援の継続をお願いする。</p>
#	#	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービスの利用の経過等の把握に努める</p>	<p>本人・家族から日々情報を得られたことを日誌に記録し、スタッフ会議にて意思統一に努めています。</p>		
#	#	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>一人ひとりが自由に安心して過ごしていただけるように、毎日の状態を把握して、スタッフ間の申し送りも詳細に表し伝えています。</p>		
#	#	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族・職員・その他関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを出し合い、より良い介護計画が作成できるように努めています。</p>	<p>介護計画は特に異常の無いときは6ヶ月、変調時にはその都度見直している。介護日誌、医療連絡ノート、医師の意見書に基づいて作成している。</p>	<p>介護計画には入居者の出来ることなど分りやすく記載されていた。医師からも往診時の意見書も得ており、多角的な情報が介護計画に活かされている。計画作成後は家族の確認に印も貰われた。</p>
#	#	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>全職員が各記録類の記入を行っています。申し送りノートでも詳細な情報の共有が行えるようにしており、また勤務交代時には引継ぎを必ず行なうようにしている。</p>		
#	#	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>同施設内のデイサービスに参加したり、他の事業所とも連携を図って柔軟な支援が迅速に行える環境づくりをしています。</p>		
#	#	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティアさんによる外出時の援助、消防署による防災避難訓練など協力を仰ぎながら支援しています。</p>		
#	#	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に。納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>当法人の医師が2週間に一度定期的に往診を行っており、かかりつけ医として適切な医療提供を行っています。</p>	<p>医師に関するホームの固定はしていない。2週間に一度、みなと医療生協診療所からそれぞれのかかりつけの医師の往診がある。義歯の調整や、家族の依頼があればリハビリ療法士も対応している。薬の管理も注意して行っている。</p>	<p>入居者のかかりつけ医が全員みなと医療生協診療所であり連絡体制も整っている。6ヶ月の目安で介護計画のモニタリングもあり、今後も医師・家族と協力して適切な医療支援を行っていただきたい。</p>

#	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	訪問看護アソシエーションと契約を行っており、毎週一回健康チェックを依頼しています。その甲斐もあり入居者の健康状態をしっかりと把握していただいています。		
#	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は病院関係者ならびに家族と連絡を取り、状況の把握、必要事項についての情報交換を行っています。また、当法人の診療所とも連携をとりあい早期退院に向けた協働を行っています。		
#	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期あり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは、入居の際から終末期の対応など家族に説明を相談をしています。かかりつけ医、訪問看護とも密に連携をとりあっており情報方針の共有に努めています。	看取り時の医療面・介護面での体制は整っている。ホームで終末を迎えられた方もおられ交代で家族が泊り込みで付き添われた。家族の間に新たに絆が出来、温かな看取りが出来ていた。入居者・家族の希望を最優先にし、安心して過ごしてもらえようように常に職員に教えている。	今後もホームで終末を迎えられる入居者があることを前提にその支援の在り方に付いて検討されたい。段階ごとに家族・かかりつけ医・管理者・介護士など関係者と対応・方針の共有を図って準備されたい。
#	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ会議の際に事故発生時の対応について確認したり、入院されている方が戻られる際にはカンファレンスもひらいています。緊急連絡先やスタッフ連絡網の掲示も行っています。		
#	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協働体制を築いている	スタッフ会議の際に事故発生時の対応について確認したり、緊急連絡先やスタッフ連絡網の掲示をしています。また、ご近所には地域理事がいるので、緊急時の応援をお願いしています。また年に2回防災訓練の際に通報訓練も実施しています。	年2回の訓練をしっかりと行い、消防署から避難時の待機場所についても助言を受けている。各部屋に消火器を設置し、AEDも1階に設置している。AEDの研修も受けている。	災害時、緊急時の訓練はこれからもしっかりと継続されたい。又、備品の確保も定期的なチェックをお願いしたい。階段がかなり狭いので、常日頃から、いろいろの場面を想定し避難時に備えられたい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
#	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者の方々は人生の大先輩であることを常に念頭において言葉使いや声かけの方法を配慮しています。	一番大切なのは入居者との信頼関係と考え、声掛けや言葉使いには注意している。家族のような親しみと暖かさと尊敬を忘れず接している。	さりげなく、全ての入居者の動向を常にしっかり把握しながら、温かく接し、声掛けをしている。入居者の表情の穏やかさがその安心している様子を感じさせる。
#	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が、希望されることを積極的に応じ、出来る限り自己決定を尊重しています。一人ひとりに合わせた支援が行えるように努めています。		
#	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その目をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホーム一日の流れはあるが、あくまで目安であり、出来る限りゆとりと一人ひとりのペースで過ごしていただくように努めています。		
#	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買物では、ご自身の趣味のものを選んで購入していただいたり、散髪も本人の行きつけの理美容にご家族様の協力を受けながら行っていただいています。		
#	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューから何が食べたいかをお聞きし、一緒に買い物へ行かれ、調理・盛り付け・配膳を一緒にしています。調理中も様々に会話しながら楽しく食事づくりが行われています。	入居者の方と料理の本などを見物しながらメニューを考えたたり、買い物の準備や調理、一緒に作って一緒に食べたり、家庭的な雰囲気大切にしている。	入居者の大きな楽しみである食事を大切に考えていられる。同法人の運営する配食センターが階下にあるにも拘らず、食事はホーム内で手間を掛け調理している。今後も温かい心のこもった食の支援の継続をお願いする。
#	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	個人の体調に合わせて、様々な食事方法を調整しています。高齢者は脱水症状になりやすいので水分摂取も徹底して実施しています。申し送りにより、その事例を他スタッフへ伝達をしています。		
#	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の度に嗽の促し、就寝時は必ず義歯の洗浄及び嗽を実施しています。		
#	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日記入している排泄状況チェック表を参照し、各入居者の排泄パターンを把握しながら早期の促しを行ってトイレ誘導を心掛けています。	トイレ介助時にはリハビリパンツやバットの交換も含めて出来るだけ言葉掛けをしなから、入居者の方のプライドを傷つけないように、又スムーズな排泄に繋がるように注意している。	入居者の高齢化が進みトイレでの排泄もだんだん困難になってくると思われるが、今後もそれぞれのパターンに併せて排泄支援をお願いしたい。
#	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人別の排泄状況チェック表にて、排泄の状況を確認し、野菜や水分の摂取を心掛け、往診時の医師や訪問看護にも相談しながら便秘の解消に努めています。		
#	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の手配や曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に入浴日・入浴時間などは自由であり、いつでも入りたい時に入れるようにしています。(夜間のスタッフが少ない時以外)	入居者の希望に合わせた時間に入ってもらっている。服が汚れた時はいつでも清潔に出来るように対応している。シャンプー用の介護用品を使用することでベッドの上での洗髪も可能になった。	異性介助を好まない入居者が時間をかけた信頼関係を築くことと、羞恥心に対する深い気遣いを通して介助を受け入れていかれた。これからもあたたかい思いにあふれた介助を続けられたらいい。

#	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングソファや食堂、居室など思いの場所から出来る限り本人の意思にあわせて休息をしていただいています。寝具も洗濯したり天日干ししたりと清潔にしています。		
#	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や薬類について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人別お薬リストをファイルに保管し、各スタッフがいつでも確認・理解できるようにしています。		
#	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩・買い物・調理・花など興味を示されることは皆さんそれぞれです。その人の嗜好・意欲に合わせて支援を行っています。		
#	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	食事時の買物や、個人の必要物品の買物、散歩・洗濯干しなど、様々な場面で外出の機会と捉えて支援を行っています。	入居者の高齢化に伴い、参加は少なくなってきたが、買い物や散歩に行ける人は出来るだけ外出するようにし、近くの八幡屋公園に、お弁当を持って家族と一緒にに行くこともある。	一人一人の希望や習慣に合わせて日常的な外出支援で外気に触れる機会を今後も取り入れてもらいたい。高齢化に伴い困難も生じると考えられるが、四季の空気を感ずることが出来るよう支援されたい。
#	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事業所での預かりですが、本人の買いたい物、買う物の際は支払い・受け取りなど状況に合わせて行っていただけるように支援しています		
#	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自身が電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙は現在利用されている方はいません。電話に関しては使いやすい場所に設置して要望があれば電話していただいたり、かかってきた際にはお話できるように支援しています。		
#	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	模様替え、家具の配置変更により、ゆっくりテレビを見られたり、みんなで談笑できる空間作りが行われました。	ソファの位置など、配置を変更したり四季折々のインテリアを工夫している。台所の手伝いが出来る方もそうでない方もそれぞれが好きなように過ごせる空間になっている。	家にいるようなくつろいだ様子でソファでうたた寝をされたりとてもごやかな表情で入居者が過ごされていた。これからも引き続きおだやかに暮らせる毎日支援していただきたい。
#	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やリビングソファで過ごせたり、お好きな所で思い思いの居場所を思い思いの寛ぎ方を自由にしていただいています。		
#	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各入居者の居室には、全てご自身の私物を持ってきていただいています。	入居者のなじみの物を家族が置かれていて、自分の家の自分の部屋のような安心感を感じてもらえるように工夫している。	それぞれ個性のある部屋に成っていて、温かみを感じることが出来た。遺影や沢山の洋服など、自分の大切な品々に囲まれて安心して過ごせるように心配り（こころくぼり）している。
#	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時は、手すり・いすなどを利用しながらなるべく一人で歩ける環境作りをしています。出来ること・出来ないことの把握を各スタッフが認識し、本人の出来る事まで手を出してしまわないように注意しています。		

V アウトカム項目		
#	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
#	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
#	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
#	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
#	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
#	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
#	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
#	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができていく	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらい <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
#	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどいない
#	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くない
#	職員は活き活きと働いている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
#	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
#	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族が <input type="radio"/> ②家族の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない